まちのミカタ
Litaracy

Recommendation

school 01 ”子どもを育てる”環境から”子どもが育つ”環境づくりへ

『三河サドベリースクール「シードーム」(2011年4月開校)』

所 在 地：岡崎市井田町
U R L：http://www.mikawasudbury.com/
レビュー：山田 高広

僕には3歳と1歳の子どもがいます。子どもが成長するにつれ、どんな家庭、学校、社会の中で育ってほしいかを考えるようになりました。そして来年、上の子の保・幼稚園入園にあたりどんな教育環境が子どもたちにとって大切なのかを考える時期にあります。いろいろ探した中で出会ったのの一つが「三河サドベリースクール・シードーム」という学校。

この学校は、子どもの自発性を重視した学びの場です。「子どもは自分に必要なことを自ら学びとっていく」という考えのもと、子どもたちは自らの好奇心に従い、ルールの範囲内で自由に物事に取り組むことができます。ルールは子どもたちとスタッフによるミーティングにて決められます。みんな同じ権利を持っていて民主的に決められるのが特徴です（デモクラティックスクールとも呼ばれています）。クラス・学年による区分けはなく、違う年齢の子が交じり合い、色々な影響を受け、学び合います。固定した「カリキュラム」「学科」「時間割」がなく、「テスト」「5段階（あるいは3段階）評価」「点数」もないが故に、「勉強ができる子」と「できない子」、「頭のいい子」と「悪い子」といったありがちな分類や仕分けもありません。

▲ミーティング風景

サドベリースクールは、現在アメリカ、ヨーロッパ、日本を中心に、世界で40校、日本でも7校と徐々に広まってきています。そして、2011年4月に岡崎市にも正式にサドベリースクールが開校します。

現在、毎週火、木、土曜日には、幅広くサドベリースクールを体験してもらうためのプレオープンを実施中。サドベリースクールについて、もっと深く知りたいヒトは↓。

★黒柳 佐智代さんに会う ⇒ TEL:080-3683-7177
★本を読む ⇒ 「自分を生きる学校」
「世界一素敵な学校」

▲設立発起人 黒柳 佐智代さん

【レコメンドのなぜ ①】
振り返ると、何となく最寄の小学校・中学校へ通い、先生に促されるまま高校へ入学。自分の学力に見合った大学へ進学。そしていざ就職活動のとき、自分が何をしたいのか分からないまま、とりあえず企業に入社。僕は一体何を目的に、学校へ通い、大学時代を過ごし、就職活動をしたのだろう。
僕は、親として、子どもがいつの日かなりたいと思うものを感じ取れる機会、選択肢を少しでも多く与えてあげたいと思う。子どもが自分の良い部分・悪い部分を理解し、僕ができなかった、自分らしく生きている人、そんな人になってほしいと願います。

【レコメンドのなぜ ②】
昨今、学校だけでなく、家庭においても「あれはダメ」「これもダメ」といった管理下で子どもたちの好奇心が打ち砕かれています。
また、子育ては、家庭だけでなく、学校、地域といった子どもを取り巻く全ての環境で行なわれ、父親、母親、おじいちゃん、おばあちゃん、親戚、学校の先生、友達、先輩、後輩、隣の人、近所の人といったように様々な人と接し、影響を受けながら成長していきます。
そういったすべての環境において、このサドベリースクールのような考えが浸透していくことを願います。

【レコメンドのなぜ ③】
人は誰しも何れは自分の力で社会へ分け入っていかなければなりません。
この学校の目標（卒業）は、学校卒業後、自由社会での人生のチャレンジに責任を持って立ち向かえる生徒を送り出すことにあり、学校の仲間やスタッフに向かって、自分が卒業後も責任ある市民として社会に貢献できることを、自分なりのプレゼンテーションで納得させなければなりません。
最近の就職においても、卒業証書（要するに学歴）が意味を成す社会から変わっていこうとしています。学歴・経歴がすべてではない、その人自身が評価される社会へなることを願います。

book 01 黒柳さんの人生を変えてしまった一冊。

『自分を生きる学校 ―いま芽吹く日本のデモクラティック・スクール』

編　　集：デモクラティックスクールを考える会
定　　価：1,800円
レビュー：マミちゃん(サドベリースクールスタッフ)

この本は、日本にあるデモクラティックスクール3校の子どもやスタッフによってつくられた本です。「あなたは、子どもを100%信頼していますか？」そんな問いに対する答えがこの本にあります。スタッフや子どもたちの実体験を基に、学校で何を学び、感じているのかが伝わってきて、本当の自分を生きる子どもたちが、日々を全力で遊び・学んで、キラキラと輝いている様子がわかります。

book 02 私は世界に一人。私の学び方も世界に一つ。

『世界一素敵な学校 ―サドベリー・バレー物語』

著　　者：ダニエル・グリーンバーグ
翻 訳 者：大沼 安史
定　　価：2,100円
レビュー：山田 高広

美しい子ども期は、美しい人生の出発点になるか？子どもが本来持っている好奇心や自由を追い求める姿勢を育むことこそが教育であるとの理念を貫く米国サドベリー・バレー校の物語。学校教育や子どもの本来あるべき姿について示唆を与えてくれます。
世界一素敵な学校とは、そこにいる子どもたちとスタッフによって創りあげられる世界に一つだけの学校なのかもしれない。

ID_000050

伝説？のコラムニストが語る！
三矢勝司の
だとすると

■コラムニスト：
三矢勝司 | KATSUSHI MITSUYA
NPO法人岡崎まち育てセンター・りた事務局長

Theme
テーマ：「4つめの顔」

りたには、定款に定めてある事業の一つに「まち育ての専門家の派遣と育成」がある。2010年度においては、約50件の専門家派遣の依頼（講演会の講師、研修会の講師）があった。専門家派遣の依頼傾向を振り返ることは「りたが外部の方々からどのような団体として認識されてきたか」に符合する。

「岡崎のまちを良くする、その担い手となる人を育てる」（※1）。そんな願いを込めて「岡崎まち育てセンター・りた」の名前があるが、この5年間（※2）の専門家派遣の変遷を概観してみると、以下4つの属性（顔）の人育てを行う団体であると認識されてきたといえる。

第一に「NPOを担う人育て」である。筆者・三矢が、住民参加のまちづくりの研究と実践を10年積み上げた後に、りたの設立に関わっている経緯もあり、5年前から岡崎市内外の方々から、まちづくりの人材育成に関する要望をいただいてきた。主なカリキュラムとして「創造的な議論、活動を生み出すための会議手法（ファシリテーション、ワークショップ手法）」「活動の作り方、組織の作り方」を学ぶための講師依頼がこれに該当する。最近では、日本政府がNPOの人材育成や雇用環境づくりに力を入れ始めたこともあり、増加傾向にあるのが特徴だ。

第二に「自治体を担う人育て」である。これは、りたとしての活動実績が積み上がり、認知度が少しずつ高まってきた4年位前から増えてきた講師依頼の種類である。「市民協働によるまちづくり」や「地域協働によるまちづくり」が、愛知県内の市町村でも扱われるようになり、一定の事例実績のある我々に対して「岡崎の経験を学びたい、知りたい（※3）」という要望が寄せられるようになった。近年では、自治体からのインターン受け入れ依頼も増えている。

第三に「公共施設を担う人育て」である。これは、2年前にブックレット2『まちづくりNPOと公共施設の指定管理』を発行したことを皮切りに増え始めた講師依頼の種類である。地域密着型で公共施設を運営し、市民も施設も育っていく。そんな、りたらしい公共施設運営の方法に注目が集まり始めた。近隣の市町村において、市民活動センターの運営に携わるNPOや行政職員を中心に、環境学習施設、公民館、生涯学習センター等に関わる皆さんから講師として呼んでいただくのはもちろん、りたの現場（岡崎市図書館交流プラザ、地域交流センター）への視察も増えてきた。

第四に「次世代を担う人育て」である。2010年に急激に増え始めた新しい講師依頼の種類がこれだ。具体的には、小・中学校、高校、あるいは大学の教育活動の中で「NPOやまちづくりを学ばせたい」という学校関係者からの依頼が増えた。りたは、子どもの頃からまちに関心をもち、まちづくりに参画することの大切さを伝えるべく、例えば「なごみん横丁（※4）」のような取り組みを進めてきたが、その教育効果にも評価がされたようだ。最近では学校の総合学習をはじめ、授業に講師として呼ばれることが増えおり、加えて、学生のインターン受け入れ依頼、はたまた就職依頼にまで広がっている。

だとすると、2011年は「りたと人育てを通じてつながった人々（市民活動者、行政関係者、公共施設運営者、生徒や学生ら）が、活躍できる場・場所作り」を意識的に進める1年でありたい。りたの周りに、色々な立場の人々が集まりつつあることに感謝しつつ、次の舞台を拓いていこう！

※1：日本のまちづくりにおいて、1970年代に共有された格言として「まちづくりは、人づくり」がある。豊かなまちをつくるには、豊かな人を育てなければならない、の意味だ。りたの「人育て」は、こうした日本のまちづくりの歴史を継承している。

※2：今年2011年9月で法人として誕生して5周年を迎える。5周年記念事業も構想中。

※3：この頃既に岡崎市が取り組んでいた「市民協働モデル事業」「市民公益活動助成金制度」「市民活動団体登録制度」「ワークショップ手法を活用した市民と行政の協働実践」「市民協働条例の検討」は、愛知県内の市町村の中でも先駆的なものであった。

※4：子ども（小中学生が対象）だけで、仮想のまちをつくり、自分達だけでまちを運営する体験学習プログラム。会場はなごみんで、8月の夏休みの時期、5日間開催される。一日あたり200名程度が参加し、その舞台は高校生、大学生、地元の方々によって支えられる。

「まちづくりは人づくり」。NPOを担う人育て、自治体を担う人育て、公共施設を担う人育て、次世代を担う人育て。育った人が活躍できるフィールドを築いてこそ、りたらしい「人づくり」は完結する。

book 03 「みち」づくりが未来を変える！？

『子どもが道草できるまちづくり』

著者：仙田 満／編集：上岡 直見／定価：2,100円／レビュー：三矢 勝司

昭和の頃は、家の前の道路で遊ぶことも、おしゃべりをすることも出来た。自らの意思と 足でいくことの出来る身近な遊び場として「みち」があった。道路が子ども達から奪われたことで、子どもの精神的、体力的、人間的発達が阻害されているとすれば、道草ができるまちづくりを進めるのが、大人の仕事であるはずだ。海外の脱車社会化の事例にも言及しながら、日本のあるべき「みち」づくりを説く。

EVENT SCHEDULE

※写真はすべてイメージです。
※予定は変更される場合があります。

3 March

6日 10:00〜16:00
ありがとう！おかげさまで3周年
やはぎかん 3周年春まつり
やはぎかん開館3周年記念して、市民文化活動1年間の成果発表イベントを開催します。バザーや体験コーナーもあります。
▼無料（体験・バザーなど一部有料）
■ やはぎかん
問 西部地域交流センター・やはぎかん TEL:0564-33-3665

13日 10:30〜12:00
大切な人に♥のパズルを描こう
＊ホワイトデー メッセージカード作り
普段、面と向かっては伝えにくいメッセージを、ハートのパズルに載せて大切な人に伝えてみませんか？汚れても良い服装、ペンご持参でお越しください。
▼500円 ■ 岡崎市図書館交流プラザ・Libra 201会議室
定 20名（先着順 お電話にてご予約ください）
問 NPO法人COCONET 愛知三河支部 神谷 TEL:0564-24-3007

24日 15:00〜17:00
26日 14:00〜16:00
29日 14:00〜16:00
みんなでつくる交流センター
地域交流センター 運営懇談会
地域交流センターでは市民の方の声を積極的に運営に取り入れています。皆さんのご意見をお聞かせください！

やはぎかん運営懇談会
▼無 料 ■ やはぎかん 防災活動室
問 西部地域交流センター・やはぎかん TEL:0564-33-3665

よりなん運営懇談会
▼無 料 ■ よりなん 防災活動室
問 南部地域交流センター・よりなん TEL:0564-59-3600

なごみん運営懇談会
▼無 料 ■ なごみん 防災活動室
問 北部地域交流センター・なごみん TEL:0564-66-8251

4 April

3日 10:00（開場9:40）〜12:00
考えてみませんか？これからの教育のこと。
三河サドベリースクール・シードーム開校記念講演会「自分を生きる学び」
講師に黒田兼美氏（デモクラティックスクール「まっくろくろすけ」創立代表）をお迎えし、「自分を生きる」とはどういうことかいろいろな学びのあり方についてお話していただきます。
▼1,000円（先着100名 予約はTELまたはHPの申込フォームにて）
■ 岡崎市竜美丘会館 5階 501号室
問 三河サドベリースクール・シードーム
TEL:080-3683-7177 HP:http://www.mikawasudbury.com/

16日土・17日日 10:00〜15:00
今年は北部らしさがより輝きます。
なごみん祭り（フェスタ）
市民活動団体が中心となってイベントを開催します。各団体趣向を凝らした発表や体験、作品展示やバザーなどが2日間楽しめます。参加団体や来館者が地域を盛り上げていきます。
▼無料（体験コーナー・食品バザーなど一部有料）
■ なごみん
問 北部地域交流センター・なごみん TEL:0564-66-8251

17日日 11:00〜18:00
※雨天時は24日に順延
くらがりがまた、にぎわいます。
くらがりSunday Flea Market
額田でフリマを通じてたくさんの交流が繰り広げられます。音楽ライブあり、飲食ブースあり。その他、額田ならではのイベント盛りだくさんの1日です。
▼無料（体験・飲食など一部有料）
■ くらがり渓谷第1駐車場
問 NuKaTa Sound Project 岩月
TEL:090-1239-5209 E-Mail：jkcch831@yahoo.co.jp

まちのミカタ
Litaracy
2011.3 vol.50

発行・編集
特定非営利活動法人 岡崎まち育てセンター・りた
〒444-0059 岡崎市康生通西4丁目71番地
岡崎市図書館交流プラザ2階市民活動センター内
TEL（0564）23-2888／FAX（0564）23-2898 http://www.okazaki-lita.com/

配 布
岡崎市図書館交流プラザ・Libra／岡崎市内の地域交流センター
会員間へ郵送 等 ※会員登録をご希望の方はお記までご連絡ください。

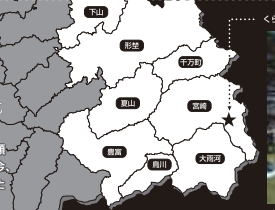
配布協力
Rags low／豊cha:ta／F.it／whiteroom／森の花畑／FMおかざき／杉くんの駄菓子屋／FURA gallery／angelshare

まちづくりLiteracy ＝まちづくりを理解、整理し、実践する能力

Theme

公約：「動き出す、額田」

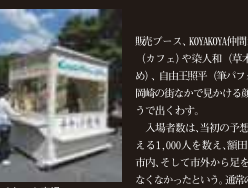
Nukata Sound Project

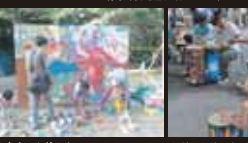


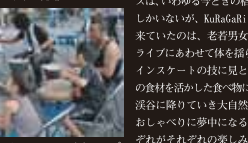
くらがりキャンプ場（石原町）

今、額田が熱い。ご多分にもれず、過疎化、高齢化など、日本各地の山村が抱える課題は、ここにも山積している。しかし、だからと言って、手をこまねいているでも何も始まらない。額田には、現状に立ち向かおうとする人々のたゆまない努力がいくつも存在している。そして今、また新たな波が東の端・宮崎は「くらがり」で、生まれようとしている。額田で生まれ育った若者たちが、彼らならではの発想とネットワークを活かして今、動き出す。

▲KuRaGaRi Sound Fesの様子（写真提供：香田ともこ）


▲チケット売場

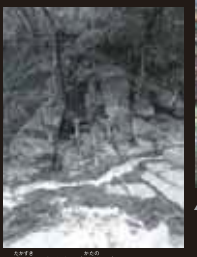

▲自由にお絵かき


▲ドラムサークルQUMAKAのワークショップ

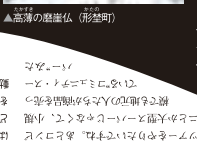
1. 額田地区概況

2006年1月1日、岡崎市と額田町が合併された。額田地区は、現在の岡崎市域の40％強にあたる約160k㎡の面積を有し、その86％を山林が占める、自然豊かな地である。かつて盛んだった林業の名残で、山林の2/3近くはスギ、ヒノキ、マツなどの人工林であるが、最近では輸入材に押され、林業従事者の減少、高齢化が進み、手入れの行き届かない山林が増えてきている。

また、額田地区全域に、乙川水系の大小さまざまな川が流れており、川沿いに集落が点在としている。鳥川のホタルや男川やな、くらがり渓谷など、清らかな流れの川に触れることができる自然資源も豊富だ。昔ながらの生活を偲ばせる古民家や、歴史的価値の高い旧跡や文化財も数多く存在している【写真参照】。



▲須佐之男神社の夫婦檜（切通町 ※厳密には生平学区だが、豊富学区の桜井寺町からアクセス）


▲高薄の磨崖仏（形埜町）

合併時約9,500人だった人口は、合併以前から現れ始めていた減少傾向に歯止めがかからず、昨年9,000人を割ける、鳥川小、大雨河小、千万町小の3つの小学校が閉校（地元の人々は、いつか小学校が復活することを願い、「閉校」ではなく、「閉校」と呼ぶ）となった。

現在、過疎化・高齢化が深刻な問題となっている額田だが、暗い話題ばかりではない。各地で、額田の環境をいかした地域活性化の取り組みが始まっている。

宮崎学区のくらがり渓谷を舞台に活動をしている額田出身の若者を中心に結成された市民組織［Nukata Sound Project］もそんな中の1つだ。昨年の9月に、くらがり渓谷にて彼らが中心となって行われた野外音楽イベント［KuRaGaRi Sound Fes］の記憶も新しい。現在春に向けて、フリーマーケット企画や、レストラン再建に向けて新たな動きを見せている。以下では、KuRaGaRi Sound Fes、そして現在企画中のプロジェクトについて紹介したい。

2. KuRaGaRi Sound Fes

くらがり渓谷は、岡崎市の東端（石原町）に位置し、起伏の激しい岩場や木立の間を縫うように渓流ががなれる風光明媚な場所である。渓谷沿いに整備されたキャンプ場では、美しい自然の中で、マス釣りやハイキングにバーベキュー、紅葉狩りなどが楽しめる。かつては三河地方屈指の行楽地として、大変な賑わいを見せていたが、最近ではすっかり寂れてしまっていた。そんな中、元気だった頃のくらがりを知る若者が、かつての姿を取り戻すべく立ち上がった。

2010年9月19日（日）、快晴。くらがり渓谷キャンプ場は、30年前にタイムスリップしたかのような賑わいを見せた。KuRaGaRi Sound Fes。緑豊かな環境の中で、地元アーティストによる音楽ライブであり、誰でも参加できる太鼓のワークショップあり、ライブペインティングや自由に描けるキャンバスあり、地産地消をコンセプトにした飲食あるの野外イベントだ。

主催はKuRaGaRi Sound Fes実行委員会。岡崎市ぬかた商工会青年部の若者たちが中心となっている。

当日、大半から37号線を通ってくるが渓谷に近づくと、渋滞ができていた。工事か事故で通行規制がかかっているのかと思いきや、それはすべて入場待ちの車の列だった。15分ほどかかってようやく車を停めて会場に向かうと、ぎっしり埋まった駐車場の奥に会場が見えた。

右手にあるチケット販売ブースは、康生でお馴染みだったKOYAKOYAの小屋（かつて岡崎商駅前で行われていた屋台村<2009年秋～冬>で使われたものを、スモール＆スマートビジネスを推進する若手起業者インキュベート屋台「KOYAKOYA」として康生で再利用していた）と同じものが使われていた。

ゲート脇では地元の作家による廃材を使ったアート作品が来場者を出迎えてくれる。ゲートをくぐった正面のテントには、いろいろな種類の太鼓・バーカッションが無数に並べられ、自由に叩くことができる。シビコ西広場の三土市（毎月第三土曜に開催される朝市）で何度かパフォーマンスしてくれた箱山さんのドラムサークルQUMAKAだ。1時間おきに開催される参加自由の太鼓セッションには、楽しげなリズムに誘われ、大人から子どもまで沢山の人が思い思いに太鼓と戯れていた。その奥には、りぶらまつりでも大好評だった「Rainbow Magic Candle」テントでは、子どもたちが虹色のオリジナルキャンドルを作るために、行列をつくっている。

会場の一番奥に構える、工事現場用の資材で組まれたステージは、稲垣町の染物＆雑貨屋さん「risorisa」によるデコレーションで彩られ、ジロー君の所属する無国籍音楽団「らん」や、六供町の三浦太鼓店六代目が率いる「和太鼓 彩」のほか、音楽やダンスのパフォーマンスが繰り広げられていた。

辺りを見渡すと、「リバ！」（※岡崎で一番ディープなタウン誌）でお馴染みの味噌蔵くんカクテルの販売ブース、KOYAKOYA仲間だったHau'oli（カフェ）や染人和（草木染め・絞り染め）、自由王照平（※パフォーマー）ほか、岡崎の街なかで見かける顔にそこらじゅうで出くわす。

入場者数は、当初の予想をはるかに超える1,000人を数え、額田のみならず、市内、そして市外から足を運んだ人も少なくなかったという。通常の野外音楽フェスは、いわゆる今どきの格好をした若者しかいないが、KuRaGaRi Sound Fesに来ていたのは、老若男女さまざまで、ライブにあわせて体を揺らす人、インインステントの技に見とれる人、地元の食材を活かした食べ物に舌鼓を打つ人、渓谷に降りていき大自然を満喫する人、おしゃべりに夢中になる人など、それぞれがそれぞれの楽しみを見出し、開放的で刺激的な時間を過ごしていた。

"地元"ということにとことんこだわり、それまでのつながりを総動員した、他ではできない岡崎、そして額田ならではのイベントであった。

3. 新たな動き

■くらがりSunday Flea Market

2011年4月17日（日）に、KuRaGaRi Sound Fesと同じ会場で開催される「くらがりSunday Flea Market」。古着、古本、CD、レコード、日用品、手づくりクラフトなどを販売する約150ブースが所狭しと立ち並ぶ（予定）の大規模フリーマーケットだ。そのほかにも、くらがりフェスのコンセプトを踏襲して、地元アーティストの音楽ライブや、額田の間伐材を利用した実演チェーンソーアート、同じく地産の竹を用いた竹細工づくり体験、足湯にドラムサークル体験など、ここでしか集まらない額田ならではの企画が目白押し。もちろん、選りすぐりの地産地消飲食ブースも軒を連ねる。

現在、出店者を募集中なので、ピクニック気分で不用品を持って額田へGo!!

Data

日時：2011年4月17日（日）11:00～18:00（雨天時、24日に順延）
会場：くらがり渓谷 第1駐車場（愛知県岡崎市石原町字松原日影3-1）
入場料：無料　出店募集！
・出店料：2,000円
・ブース2m×3m
・出品禁止項目：公序良俗に反するもの全般、飲食物、動物
・申込〆切：2011年3月17日（木）

■cafeくらがり

▲レストハウスくらがり外観（改装前）

▲レストハウスくらがり内観（改装前）

くらがり渓谷キャンプ場の入口にある"旧食の洋食屋"レストハウスくらがり。去年の12月に一度その歴史に幕を閉じ、今新たな息吹が吹き込まれようとしている。その名も、「CAFE AND GALLERY with calm glass工房　cafeくらがり」。康生で大気の弁当屋Sweet Lunch Boxの岩月二郎氏（額田出身）が手がける、無農薬自家栽培の野菜や地元の素材にこだわったカフェとして、5月にオープン予定だ。

岡崎のボロンリケート・ガラス・アーティストCalm Glassの工房とショップ・ギャラリーが併設され、オリジナルガラス製作体験も可能になる。

現在、地元の大工さんと徐々に改修が進められており、川沿いのオープンテラスが新設され、木の温もりが感じられるあたたかなカフェ空間に生まれ変わる。額田地区と岡崎地区の情報や人々の架け橋になるような場づくりを目指して目下奮闘中だが、できた暁にはぜひ一度訪れてほしい。

Data

住所：岡崎市石原町牧原日影3
定休日：火曜日（予定）
営業時間：10:00～（開店時間は季節により変動）
電話番号：0564-83-2232

詳しくは、Nukata Sound Project ホームページ（http://nukatr-soundproject.jimdo.com）岩月氏（jkcch831@yahoo.co.jp）まで。

まちづくりの「Why」と「How」

Theme

私的／「額田の音つた男たち」

**岡崎の中心部から車で走ること30分余り。岡崎市額田支所（旧額田役場）の隣に建つ額田会館には、それぞれ音楽を愛し歌に集まった若者たちが溢れる活気があった。20年ほど前、岩月二郎氏（28）、鹿の谷ブンロ氏（28）、鹿の谷ブンロ氏（28）、鹿の谷ブンロ